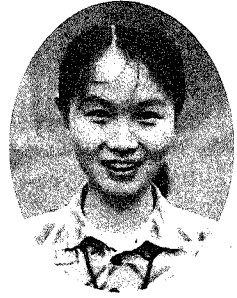


鄧 蓉さん



私は湖南師範大学の交換留学生として、都留文科大で一年間過ごしました。

この日本での一年間を振り返ってみて、印象深いのは都留市の風景です。春・艶やかな桜の花、夏・みずみずしい新緑、秋・ようえんなもみじ、冬・清らかな雪、それぞれ四季おりの趣があり

都留文科大に交換留学生として迎えた中国湖南師範大学の鄧さんと愉さんと、帰国にあたり都留の思い出を語る。

ます。あちこちに見える寺社仏閣は、金色に輝いて仰ぎ見る人を自然に厳かな気持ちにさせました。日本人の精神の奥深くに、宗教観が宿っていて、日常生活の中に溶け込んでいられるでしょう。年中都留市の町に何ともいえない芳しい香りが漂って、静けさに満ちています。慌ただしい現代文明の中でこそ、現代人は古典的な物と静けさを求めるのではないのでしょうか。

日本人は「人間は自然と調和を保つべきものだ」と考えているそうです。この一年間、私は自分の目で見て、肌で感じて、確かに日

本人は自然のものをその自然のままの形で生かしているようにしていると実感しました。

「日本の社会で生活して、どんなことを感じましたか」と何度も日本人から聞かれました。その答えを考えてまとめてみました。

- ・ 小さな小さな食堂と店でもきれいで安心して食べられること。
- ・ 電車もバスも時刻表どおりに動き、ほとんど遅れないこと。
- ・ 郵便が速く確実に届くこと。
- ・ 公衆電話が便利で、壊れている電話があまりないこと。
- ・ 安全で、荷物はどこに置いて大丈夫なこと。
- ・ 道を尋ねる時、何度も親切に

教えてくれること。たぶん、日本人にとって、電車が時間どおり着いたり、どこにでも壊れていない公衆電話があるのは、当たり前なことなのでしょう。



おいしかったほうとう

愉 建陵さん



昔の民話に載っている、弁慶が石を投げた高川山や城下町谷村のお城山と、そのまわりに緑いっばいの山々をぬって、溪谷の紅葉を映して、清く激しく流れる桂川に抱かれた都留市はとても綺麗で美しいです。

この土地で、お互いに協力し、励まし合い、独自の文化を形成し

都留文科大に交換留学生として迎えた中国湖南師範大学の鄧さんと愉さんと、帰国にあたり都留の思い出を語る。

てきた「甲州人気質」と「甲州人の甲斐性者」として誇られたことは、古文書に残っています。もし、車が走っていないければ聖書に載っているパラダイスはまちがいなく、きつと都留市と同じだろうと思えます。また、道路沿いにすこし街路樹があれば、散歩人にとって、もつと優しいかもしれせん。

こうした環境の中にある都留文科大は、昭和二十八年に山梨県臨時教員養成所として設立されて以来、歴代の学長先生を始め、諸先生方の教育に対する情熱と教育尊重の伝統を背景とした都留市民のご支援のお陰で、

現在、約二九〇〇名の学生を有する名門大学へと発展してきました。この名門大学に留学できまして、とても光栄です。日本は、世界の先進国だから、教育ももちろん世界のトップレベルです。小学校から大学に入るまでに、十二年も外国の先生による本格的な外国語教育を受けられる機会に恵まれています。

幸い、私はこの一年の留学期間中、すばらしい環境の宿舎に恵まれ、都留文科大の先生のご教授を初め、学生の方々、事務局の方々や食堂のみなさまなどに、とても親切にしてくださいました。ほんとうにありがとうございました。

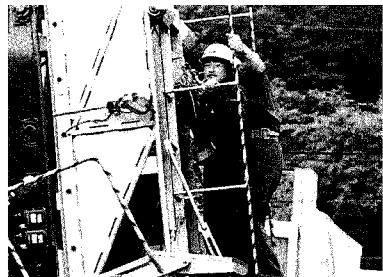
この一年の留学体験を今後の仕事の中で必ず役立たせ、いっそう頑張っていきたいと思えます。また、日中友好を深める中で、この度の留学の成果をより良く生かせるよう努力したいと思っております。

初めての登山。三ツ峠山頂にて



初めての登山。三ツ峠山頂にて

職場体験



ハシゴ車ってこんなに高いの

父親の職場を見学して

東桂中学校 一年 渡辺季代子

私の通う東桂中学校では、夏休みを利用して父母の職場を見学して、自分の将来の進路に役立てようと昨年から職場見学をしています。私は、父親が勤務する消防署を見学することにしました。消防署には小学校四年の時、社会科の勉強で行ったままでした。

七月二十六日、父と一緒に消防署へ見学に訪れました。始めはすごく緊張しましたが、ハシゴ車や救助工作車の訓練に参加し、消防署のおじさん達の姿を見て私は感動しました。なぜなら、人を助けるときのすばやさ、一生懸命仕事をしている姿はとつてもかっこよかったです。私も一生懸命勉強して、将来は人のためになるような仕事につきたいと思っています。